

ランナビリティを最大限に



実速測定が必要な3つの理由:

1

予期しない速度差が品質と走行性の問題を引き起こします

2

速度の違いが極端な摩耗を引き起こします

3

短時間で簡単な操作
高い信頼性！

なぜフェルトやロールの速度を測定するのか？

抄紙機のフェルトや繊維はすべて、正確に制御された速度で走行しなければなりません。残念ながら、ドライブ制御システムは個々の速度を測定するのではなく、計算された近似値を使用します。抄紙機服のキャリパーとロールの直径は、手動でシステムに入力され、ドライブの回転数と乗算されます。

手動でデータを入力すると、間違ったデータを使用したり、変更後にデータを更新するのを忘れていたりして、入力ミスリスクが生じます。また、ドライブロールを滑りすぎると、ドライブ制御システムが大きく混乱する可能性があります。DCSIはすべてのセクション速度が正しく設定されていると述べてますが、製紙業者は数多くのブレーク、異常なドロウまたはシート表面の欠陥に直面しています

リアルスピードは、(駆動される)ロールと製紙機械のフェルトの実際の速度を確認する最速の方法です。これは、入力エラーやドライブロールのスリップに起因する望ましくない速度差を特定するのに役立ちます。トラブルシューティングと走行性向上に最適なツールです！

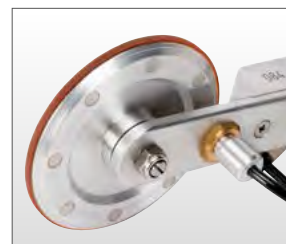


リアルスピード

ランナビリティを最大限に

2分以内に正確な速度測定が可能です！

レーザードップラーシステムを使用して、抄紙機のロールまたはフェルト・織物の速度を測定することがあります。このようなシステムと比較すると、リアルスピードには多くの利点があります。1分で使用できる状態で、測定自体にも同じことがあります。リアルスピードは、ほぼすべての位置で使用できます：濡れている、湿っている、乾燥している、高温；安定しているか振動している！さらに、リアルスピードは使いやすく、中規模程度の投資しか必要とせず、非常に正確であることを保証します



装置に含まれるもの：

- ハンドグリップと2つの測定ホイール
- 多用途に1つ、プレスフェルト用に1つ
- 📊 1つの固定入力チャンネルを持つプログラマブル読み出しユニット
- 🔌 ハンドグリップと読み取りユニット間の接続ケーブル
- 🔧 ホイールを交換するための工具セット
- 📄 英語でのユーザーマニュアル
- 👛 固体金属キャリングケース



使用可能なオプションは、以下のとおりです：

オプション：ワイヤレス接続

測定ホイールを備えたRealSpeedハンドグリップは、ケーブル（標準供給範囲）またはワイヤレス接続（RealSpeedワイヤレス）の2つの方法でバット・テリー・オペアンブに接続できます。両方のセットには2種類のホイールが付属しています。湿式プレスフェルトに使用するためのものと、布地、乾燥機スクリーンおよびロールを形成するために使用するものがあります。

オプション：光センサーと可変信号増幅器

コントロールユニットは、ギアボックスなどの回転速度を測定するための光センサーで拡張することができます。光センサーは非常に感度が高く、（オプションの）調整可能なシグナルアンプと組み合わせることで、非常に広い適用範囲が保証されます。

仕様	RealSpeed
速度幅	0.1 - 3000 m/min
精度	0.05% ± 1 digit.
読み出し単位	m/s, m/min, m/h
試験材	ファブリック、プレスフェルト、ドライヤースクリーン、ロール
ホイール径	Ø 100 mm;
測定ホイール	ロール用の1つのホイール、フォーミングおよびドライヤーファブリック、プレスフェルト用の1つのホイール
温度範囲	0 - 60°C (長時間測定) 0 - 90°C (短時間測定)
重量	測定中に保持される部品の重量: 1.25 kg キャリングケースを含む完全なセット: 5 kg
パワーサプライ	4 x AA タイプ使い捨てバッテリー
オプション	- 車輪と制御ユニットとの間の無線接続 - 光学センサー - 調節可能な入力感度を備えたコントロールユニット



稼働中の抄紙機であらゆる種類の測定を行うことは潜在的に危険であり、注意力、集中力、知識が必要です。

Feltest Equipment BVの製品は、意図された用途のためにできるだけ安全になるように設計され、構成されています。Feltest Equipment BVは、Feltest Equipment BVの製品を使用して生じた傷害または損害について、一切の責任を負わないものとします。製品は、予告なく仕様変更されることがあります。

Telephone: 043-308-7302
Email: info@igt.co.jp
Internet: www.igt.co.jp